

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.4.1

No.81

二〇一一年三月十一日、忘れられない時になりました。午後二時四十六分、一階にいた私は強い目まいを感じて「脳の病気か?」と思ったほどでした。子どもたちも同じ反応で地震と聞いたときはみなで思わず笑ってしまいました。その時、東北地方でどんな揺れが起こっていたか、またその後どんなに恐ろしいことが起こるのかも全く想像もできずに…。

しばらくしてテレビでニュースを見ると死者が十人ぐらいから始まり、時間と共に数が増えていきました。十六年前の阪神淡路大震災のときもそうでした。あの時は八階に住まいがあったので少し被害もありました。でも神戸というすぐ近くの悲劇をなかなか実感できなかったのです。今回はなおさらでした。

被害の状況があまりにも甚大で各被災地ですのようなことが起こっているのかなかなか掴むことができませんでした。こんなに通信手段が発達した今日でもわからないことがいっぱいあることを痛感しました。また正しい情報を得ることこそ、適切な対応をとったり、人々を安心させたりするのに最も大切であることを思わせられました。

聖書に関する情報や、聖書の中で伝えられている情報についても考えさせられました。聖書



災害が私たちに語りかけること

は今から二千年前に書き終えられ、世界中に広まっていききました。原本から正しく写本されるように入念な対策が取られました。旧約聖書に関しては紀元前に写本されたものが発見されたことにより、今私たちが持っているものと原典が同一であることを確認することができます。新約聖書に関しては、断片的な写しが何万という規模で残り、また聖書を引用している文献がたくさんあるので原典に確実に迫ることができません。その後、真価が試され続けています。

このような災害について、私たちはどのように受け止めるべきでしょうか。自然災害だから仕方がないで済ませるべきではない、と聖書は語ります。具体的に言うと…。

①現在の被造物の状態に気づく必要がある

「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもの栄光の自由の中に入れられます。私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきと嘆きに産みの苦しみをしていることを知っています。」

(ローマ八章二十一、二十二節)

今の地球は、神が最初造られた状況とは大きく異なっています。管理者として立てられた人間が創造主から離れることによって今の世界は「滅びの束縛」の中にあり、徐々に崩壊に向かっていっているといえます。しかし、「産みの苦しみ」とあるように「滅び」や「苦しみ」自体が目的ではなく、新しいものを産み出すための「陣痛」のようなものです。確か

に「方々にききんや地震が起こります。」(マタイ二十四七節)と聖書は終末時代について語っていますが、それはすべてが終わるという意味ではなく、新しい時代への転換点だということです。今の時代を冷静に見極め、来るべき世界のために準備をするように薦められています。

②生きている私たちに問いかけられている

特に被害を受けなかった私たちが考えなければならぬことがある、と聖書は警告します。

「また、シロアムの塔が倒れ落ちて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも罪深い人たちだったとも思うのですか。そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」(ルカ十三章四、五節)

当時自然災害とも言うべき事故が起こりました。亡くなった人々に対して「罪を犯したので死んでしまった。」と感じる人がいたようです。イエスはこうして事故に巻き込まれたか、その理由については言及しませんでした。聖書の中にたくさん悲劇が記されていますが、どうしてそうなったかを説明されているのはごく一部です。それよりもそのことを通して今生きている私たちが教訓とするように薦められています。この箇所では「厳しい警告」です。私たちはいつ命を落とすかわからない。神の前に立つ備えをしておかなければならない。最も準備しておかなければならないことは、私たちの内にある「罪の問題」を解決しておくことだといえます。このためにこそ救い主イエスは地上にきてくださったのです。

あと一年

M

最近はこの大学でも合格発表をネットで掲載します。発表日、恐る恐るページを開きました。「…やっぱり、ダメだったか。」このとき、浪人が決定。今年も続けて勉強させて頂くことになりました。不合格通知を受け取ってから二週間、進路について今までで最も悩んだ時になりました。

予備校に行くべきか、宅浪でがんばるのか：費用面に限らず、自分のモチベーション、勉強方法も考慮するため、ギリギリまで決めかねていました。聖書の中で、ダビデという人物が神様に対して口にした言葉があります。

「神よ。みこころの時に。あなたの豊かな恵みにより、御救いのまことをもって、私に答えてください。」

(詩編六十九章十三節)

ぼくも同じ気持ちでした。はつきりと「こつちを選べ！」と教えてほしかったのです。しかし、考える中、すでに示されていることに気付きました。

実は先日、感動の瞬間に立ち会うことができました。ある友達がクリスチャンになったのです。そして、五日後。別の友達がバプテスマを受ける決心をしました。この二人の友人とは長い間、福音についてよく話していました。それでも、なかなか変わらない様子を見るうちに、諦めの気持ちも少しありました。しかし、それを知っていた分、今回の前進を思うと「神様のために語った言葉は決して無駄にならない」、「自分が信じる神様はどんなことでもおできになる方だ」と確信できるのです。

この神様が今、どこに導いているのか。ホームスクールとしての立場が鍵となると思いました。一時期、ホームスクールのクリスチャンが学生に伝道など不可能だとふてくされた時期がありました。けれど、神様は普通の学生クリスチャンでも滅多にない貴重な体験をさせて下さったのです。「ホ

「こんなことになりました！」 行事報告

三月

- 一日 H・十七歳誕生日
- 十四日 映画「ナルニア物語3」観賞
- 十五日 お作法教室
- 二十二日 塗り絵・工作教室
- 「水彩画で描こう⑥」
- 二十三日 E・十三歳誕生日
- 二十四～二十六日 BC春キャンプ
- 二十九日 関西ホームスクール交流会
- T家の二人がお泊り会

(大阪府立少年自然の家)



ームスクールだから

〇〇ができない「これは自分の不信仰だと気付きました。僕は大学に行きたい。けれど、最も望むことは「神に喜ばれるクリスチャンに成長すること」です。その最初の一步は家族を愛し、家族に仕えること。この目標を考えるとき、ホームスクールであと一年をがんばろうと、平安をもって決心できました。

気がかりといえはさらに一年、家族と集会、周りに迷惑をかけることです。特別に与えられたこの一年を大切に使用していきたいと思えます。

中学を振り返って&高校生になって

N

中一の時、バプテスマを受けたという一生忘れることができない思い出があります。私は神様に従うということを難しく考えず、単純に考えていました。しかし、この三年間神様と歩んできて、バプテスマを受ける前より分からないことなど増えたことは確かですが、その度に御言葉から教えられていきました。

勉強の面では、「神様のために勉強する」「学生の仕事は勉強」ということを心に刻みながら勉強してきましたが、ベストを尽くしたとは言いません。中学生の時の反省を生かして、高校生になった今は中学生の時以上に頑張ろうと思います。

中学の三年間はJCホームチャースクールで、礼儀作法の授業に出席させていただきました。学校では教えてもらえないことを教えてもらいました。高一になるのを機に卒業しましたが、今まで教えてもらったことは忘れず、実際の生活にも活用していきたいです。

高校三年間の神様が与えてくださる恵みを日記に書いていこうと思いい、三年日記を購入しました。これからのように導かれていくのか分かりませんが、神様を見上げて歩んでいきたいです。

編集後記

一カ月前には予想もしなかった現在の日本。先月十一日に東北関東大震災発生。Mはさらにもう一年受験勉強することになりましたが、家もあるし、食べ物もあるし、家族もいる。与えられている恵みを謙虚に受け止め、全力で日々を生きていきたいと思います。